

# 佐賀市 20 歴史探訪

## おお たから せい どう あと 大財聖堂址

佐賀藩の藩士教育施設として最も早いものに、元禄4(1691)年、二代藩主光茂により設置された佐賀城内の二の丸聖堂があります。この地は、参詣するには不便であるとのことで、元禄13(1700)年、城外南西部の鬼丸の地に聖堂が移されました。これを鬼丸聖堂といいます。

二の丸聖堂や鬼丸聖堂は、いわば「佐賀藩立」のものですが、二の丸聖堂に遅れること3年の元禄7(1694)年には、民間による大財聖堂ができました。これは、佐賀藩の御用商人の系譜を引き、佐賀城下白山町の町人頭であった、武富市郎左衛門(成亮または廉斎)により建設されたものです。この聖堂の完成

に際して、三代藩主綱茂は孔子像を、支藩蓮池二代藩主直之は顔子像を、久保田邑主村田政盛は曾子像を寄贈しました。市郎左衛門は聖堂の傍らに、家塾「依仁亭」を設け、藩士や庶民に儒教を教えました。

この大財聖堂および家塾へは、藩からも援助がなされ、武富家の子孫によって経営されました。しかし、城下はずれで毎日の通学に不便なため、年を経るたびに学生数も減少し、天明年間には廃校寸前の状態であったようです。

現在、大財聖堂址周辺は住宅地となり、その場所は不明確となっていますが、街角に立っている「大財聖堂址」の石碑と、橋に残る「廉斎(れんさい)」の名前だけが、当時をしのぶことのできる、数少ない痕跡です。



▲多久市西蹊公園に移設された「大宝聖林碑」



▲大財1丁目にある「大財聖堂址」の碑

### 一口メモ

・大財聖堂の所在を示していた「大宝聖林碑」は、現在多久市の成蹊公園にあります。昭和28年ごろ大財から多久に移設されたそうです。

・聖林の碑は、石碑を亀が背負っている様式となっていますが、これを「亀趺」といいます。古代中国にその初源があり、記念碑や墓碑として用いる例が多いようです。佐賀市域では、万部島の佐賀の役記念碑に用いられています。



▲万部島 佐賀の役記念碑



至片田江交差点